

令和 5 年 12 月 13 日

胃がん内視鏡検診について

1 がん検診の位置付け

がんは市民の生命・健康にとって重要な問題となっており、国が定める推奨年齢等の市民を対象としてがん検診を実施することにより、疾病を早期に発見し、治療や支援に結びつけるために重要な役割を持つ。

市では、健康増進法に基づき、がんの早期発見・早期治療を目的に、対策型検診（胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・子宮頸がん）のほか、市独自の検診（喉頭がん・前立腺がん）を実施している。

2 胃がん内視鏡検診について

本市の令和 3 年主要死因別死亡割合では、悪性新生物（がん）が 26%と最も多く、今後も市民の健康維持のため、がん検診の効果的な実施及び持続可能な検診体制の確立のため、適正な利用者負担を図っていく必要がある。

平成 28 年度 2 月に、厚生労働省が定める「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が改正され、対策型検診として胃がん内視鏡検診が追加された。改正に基づき、平成 30 年度に、西東京市医師会より、がん検診受診率や死亡率、他自治体の実施状況等を鑑み、胃がん内視鏡検診の実施について、提言があった。令和 2 年度に、西東京市医師会会員医師を構成員とする胃内視鏡導入検討会を立ち上げ、現在、実施に向けた検討を行っている。

3 胃がん内視鏡検診導入までの経緯

平成 30 年度	西東京市医師会からの胃がん内視鏡検診に向けた提言
令和 2 年度	胃内視鏡検診導入検討会の立ち上げ
令和 3 年度	胃内視鏡検診導入検討会議の実施、胃内視鏡検診について、各医療機関にアンケート調査実施
令和 4 年度	胃内視鏡検診導入検討会議の実施、胃内視鏡検診体制の検討、胃がん内視鏡検診実施マニュアル（案）作成
令和 5 年度	胃内視鏡検診導入検討会議の実施、胃内視鏡検診体制の検討、胃がん内視鏡検診実施マニュアル（案）作成、研修会の開催

4 先進自治体の実施状況

26 市中 11 市実施（令和 5 年度現在）